

～つながる人の輪～ 復興Report ④



当日は、中央区のみなし仮設住宅に住む約100人が参加。校区の人と交流を深めていました



完成した竹あかりには、思いのメッセージが



住まい探しのブースで専門員に相談する参加者

復興元年 つながる中央区 「ささえあい会」開催

9月30日、熊本市役所大ホールで、中央区のみなし仮設住宅の入居者を対象に、法律相談や住まい探し、生活資金、債務整理、介護サービスなど、日常生活における悩み事の相談会と地域住民との交流会が行われました。

参加者は、高齢者支援センターの職員や民生委員、看護師、介護の専門スタッフなどが配置された校区ごとのテーブルにつき、竹燈籠づくりなどを通じ交流を深めました。

熊本市内は、9月末現在のみなし仮設住宅数が約9400戸。約2万1000人が自宅を離れて生活しています。そのうち、中央区は約2500戸、一人暮らしの高齢者が519人に上ります。

上熊本の自宅が全壊し、現在新町のみなし

仮設住宅に一人で暮らしている70代女性は、「転居先で好きな押し花教室を開くことが生きる支えになっています。新しい生活に向けて前を向いて歩いていきたい」と話していました。

植木温泉で、北区のみなし仮設住宅等入居者の交流・相談会

10月12日には、北区の植木温泉「荒木観光ホテル」で、のみなし仮設住宅の入居者105人が参加する交流・相談会が行われました。

まず、野口恭子区長が「区民の皆さまの大変な生活の一助となるよう相談会を開催しました。1日も早い再建に向け今後も未長い支援を続けていきます」とあいさつ。

熊本大学教授システム学研究センターの都竹茂樹教授による健康講座では、地震後、運動する機会が少なくなったという高齢者が、自宅でできる筋トレに挑戦していました。

お昼から食事会も行われました。高平台校区から川上校区に転居したという70代女性は、認知症の夫と2人暮らし。「どこに行くにも夫のことが気がかりで、自分が倒れてしまったらと考えます。今日は、地域の人との触れ合いを楽しみに参加しました」とニコリ。

生活再建支援制度に関する相談や住まい探し、健康・介護に関する相談をしたり、温泉で疲れを癒やしたり、それぞれの時間を過ごしました。



北区の野口区長のあいさつに耳を傾ける参加者



筋トレの指導をする都竹茂樹教授



足の上げ下ろしなど簡単な筋力トレーニングに挑戦

外出中(日中)に地震が起きたら・・・

住宅街では・・・

- ◎ブロック塀や石壁、門柱などから離れます。
- ◎屋根瓦やガラス、看板など落下する恐れがあります。手荷物などで頭を守りましょう。
- ◎車を運転していた場合は、道路の左側(空き地など駐車スペース)に停止してエンジンを切ります。



エレベーターの中・・・

- ◎すべての階のボタンを押し、最初に停止した階で降ります(エレベーターに安全装置が付いている場合には、自動的に最寄りの階で停止します)
- ◎閉じ込められた場合は、非常ボタンやインターホンで外部に連絡をして救助を待ちます。

防災は日頃の備えから

日中や外出中に地震が起きた場合、家族と一緒にいるとは限りません。避難場所や災害時の行動など、日頃から家族と話し合っておく必要があります。

また、災害時には家族の協力も必要です。災害時の行動や、連絡手段、役割分担など、防災について家族で話し合っておきましょう。



被災後の消費者トラブルQ&A

債務に関するトラブル

Q 地震をきっかけに、多重債務の状態になってしまいました。どこか相談できる窓口がありますか。

A 多重債務に関しては、熊本市消費者センターで相談を受け付けています。その他、消費者自立のための生活再生総合支援事業(熊本県グリーンコープ生活協同組合くまもと 生活再生相談室に委託)も行っています。不明な場合は、熊本市消費者センターへ相談ください。



熊本市消費者センター ☎096-353-2500(平日午前9時～午後5時)
グリーンコープ生活再生相談室 ☎096-243-2100
(平日第3土曜午前9時30分～午後6時)

被災者のためのメンタルヘルス相談ダイヤル

熊本こころのケアセンター

相談専用ダイヤル
☎ 096-385-3222
時間／午前9時～午後4時(平日のみ)

熊本市こころの健康センター

(ウェルパルクまもと)
☎ 096-362-8100
時間／午前9時～午後4時(平日のみ)

熊本いのちの電話

☎ 096-353-4343
時間／24時間受付

毎月10日はフリーダイヤルで実施

☎ 0120-783-556

熊本こころの電話

☎ 096-285-6688
時間／午前11時～午後6時30分
(年中無休)

よりそいホットライン

☎ 0120-279-338
時間／24時間(年中無休)

よみがえったふるさと 史跡めぐり

ちょうこうえん 「釣耕園」

所在地／西区島崎5丁目

城西校区の史跡を私たちが案内します！



城西校区まちづくり委員会
観光ガイド部会
部会長 西 俊行さん(左)
観光ガイド 渡辺健二さん



江戸時代の建築様式も必見



江戸時代中期、細川家五代藩主綱利(つなとし)がお茶屋として開いた建造物。綱利から重臣の続弾右衛門(つづきだんえもん)に与えられて以降、続家により大切に守られてきた市の指定史跡です。

熊本地震では、瓦が落ちる他、燈籠が倒れるなどの被害はありましたが、美しい景観はそのまま。城西校区まちづくり委員会により調査が進められ、「釣耕園」を中心とした新たなまちづくりもスタートします。

木々に囲まれた苔むす庭園に身を置くと、熊本市中心街からわずか30分とは思えない静寂に包まれます。11月下旬から12月初旬にかけては、紅葉が見頃。周辺には、加藤清正ら肥後の三賢人を祭る「三賢(さんけん)堂」や、医学者の家として知られる村井家の別荘「叢桂园(そうけいえん)」などの史跡が点在しているので、1日かけてゆっくり散策してみるのもいいですね。

※観光ガイドの問い合わせ先 ☎090-3074-6189(西さん)

熊本発

発見！

震災後に生まれた スグレモノ

ブリッジマモト

被災地のブルーシートで「BLUE SEED BAG」

昨年5月、熊本地震後の現状を発信し、復興の懸け橋になりたいと、県内外のクリエイターが結集。「ブリッジマモト」が発足しました。熊本地震で使われたブルーシートを使い、熊本復興の青い種をまく「BLUE SEED BAG」を作り、全国のイベントやインターネットで販売しています。商品化のヒントになったのは、東日本大震災を経験した石巻市の主婦が作った大漁旗のプレスレット。熊本県立大の学生ボランティアなどの協力で、ブルーシートの洗浄、カットなどを行っています。青山学院大や企業とのコラボ商品を作る他、鳥取地震で被害を受けた地域との連携も進んでいます。



福岡でブルーシート洗浄のイベントも

読者プレゼント 2名様！



「BLUE SEED BAG」

応募締め切り：12月29日(金)必着
郵便番号、住所、氏名(ふりがな)、年齢、性別、復興だよりの感想を明記し、はがき、またはメール(住所、アドレスは復興だより表紙下部に記載)で復興総室宛へ応募ください。

※応募いただいた個人情報は商品の発送のみに使わせていただきます。



一般社団法人ブリッジマモト
代表 佐藤かつあきさん

2017年グッドデザイン賞を受賞。さらに対象商品の中でより高く評価されたグッドデザインベスト100にも選ばれました！